

内閣府、上越市の200件余り未だ認めず 昨年1月の災害救助法対象の除雪支援費

今議会の一般質問で私が最初に質問したのは雪対策です。特に昨年1月の豪雪時、災害救助法が適用されたにもかかわらず、未だに国が除雪支援費の対象として認めていないケースがあることを問題にしました。以下はその質問の一部。

【橋爪】2021年1月の豪雪時、災害救助法対象となる除雪費支援の一部が未だに認められていない。現段階で、上越市分はどれくらいあるのか。

【中川市長】要援護世帯等3,579世帯の救助を実施した。国からは、現場の写真が添付されていないことや、住宅側面等の除雪の必要性について確認を求められ、その後、救助法適用の可否について、1,186世帯を対象に国の精算監査を受けた。現在、精算監査の結果を踏まえ、200世帯余りについて、再度追加資料の提出等を求められ、対応している。

【橋爪】200世帯余に対して追加資料

を求められているとのことだが、写真だけでなく、ほかにも証明するものを出せということか。

【小林福祉部長】写真以外では、屋根雪の側面の大雪をどうして除雪をしなければならないのかといったことを、例えば文章で説明をしたりとかいったものが多くなっている。店舗と住居が混在してるようなお宅では、店舗と住宅の割合についての質問等があって、それらに答えている。

【橋爪】そんなことのために、職員を使って資料出させるんですかね、今の内閣府は…。豪雪というのは、かつて原健三郎という、国土庁の長官が言ったように、豪雪それ自体が災害だ。助けてくれるってところは写真があろうがなかろうが、すぐ助けのための手を差し出す、それが政治じゃないですか。「これは、普通の雪か、災害の雪か。これは住



宅の雪か店舗の雪か」、そんなことを言って除雪する人はいない。こんなやり方では駄目だと国にはっきり言ってもらえませんか。

【中川市長】机上の空論で豪雪地帯のことを考えていただいたら困る。国にも強く訴えていく決意だ。

町田古墳群の発見、市史に1ページ加える成果

一昨年の3月に吉川区町田で頸北歴史研究会の皆さんが発見した町田古墳群についても取り上げました。

【橋爪】町田古墳群発見の意義、文化財調査審議会などでの対応と今後の課題について聞きたい。

【早川教育長】古墳時代前期から中期の古墳群と考えられる。そのうちの1基は前方後円墳である可能性が高く、市内では清里区の菅原古墳に次ぐ2例目であり、県内でも9例目となる発見であると指摘されている。この発見は、頸北地域にも大和政権とつながりを持ち、古墳群を造営する集団がいたことを示しており、本市の歴史に新しい1ページを加える成果だと考えている。令和4年2月には文化財保護法に基づく遺跡登録の手続きを行い、その保護措置を講じた。教育委員会としては、課題の解明に向け、県の指導を受けながら、同研究会とも連携し未発見の古墳の把握とその保護に万全を期す。

【橋爪】まだ古墳が幾つあるのかも確定できてない。どこにどんな形になってるかってことも定かでないところがある。だからまずは、この

調査を先行させて、しっかりと実態を掴んでいく。これが基本だ。その後、どう活用していくか。現地に足を運んで見てもらい、自分の言葉で語れるような条件作りが必要だ。道路整備も含めて。教育大綱に「上越市はあなたのワクワクする学びを支えていきたい」という言葉がある。市長部局も応援していただきたい。

【中川市長】地域の子もたちが地元に関心を持ち、わくわくする学びはとても大切だ。私も全力で応援していきたい。



【サザンカ】ツバキ科の常緑広葉樹の小高木。漢字で「山茶花」と書きます。毎年、この時期になると、ツバキかサザンカかで悩みますが、サザンカの葉は2～5センチで、ツバキよりひと回り小さく、花はよく開きます。花期は10月～12月、野生種は白色ですが、園芸種は紅色、ピンクなど様々です。写真の赤いサザンカの花言葉は「あなたが最も美しい」です。

はしづめ法一の 活動レポート

No.2090 2022.12.18

発行編集 日本共産党上越市議 橋爪のいかず

Tel 025-548-3628

通じないときは 090-5392-1961

E-mail hasiznyg_0808@yahoo.co.jp

URL <http://www.hosei.jp/>



ブログ
「ホーセの見
てある記」は
← こちら

橋爪法一

検索

春よ来い

第七三七回 何をしても

母が亡くなってから二か月が経ちました。母の遺骨が入った箱はまだわが家の座敷にありますので、朝起きた時と家に帰った時には必ず母に声をかけています。

母が健在だった頃は、「ほしや、市役所へ行ってくるよ。元氣でないや」とか、「帰ったよ、体の調子はなじよだね」などと母の顔を見ながら、声をかけていたので、いまは、「ばちや、おはよう」「ばちや、帰ったよ」と短く声をかけ、コッ箱と遺影にさわっています。

亡くなってからしばらくは、なかなか眠れませんでした。いまはだいぶ眠れるようになりまし。ただ、母とは一年半くらい同じ寝室で寝起きしていたこともあって、自分の部屋に戻る気はしません。

長く母の居場所だったベッドや居間で使わせてもらった電動椅子はすぐにお返ししましたので、わが家の中の風景は、母がいたときは変わり、さみしくなりました。そして最近、何をしても、母がいたときの場面を思い出さなくなりました。

例えば、トイレに入っているときです。母は便座に座ってトイレペーパーを取るときは、必要な分を全部引っ張り出して、その後、たんで使用していました。そのペーパーを引っ張っている姿が目につかぶのです。

現在、居間にはコタツが出してあり、長座布団を敷いています。私はかつて父が座っていた場所で、いつものように新聞を読んだり、本を読んだり、スマートフォンを操作したりしています。四か月前までは、この私のそばに母が電動椅子に座っていました。だから、長座布団に座っただけで母のことを思い出します。

母がいるときは、時々、スマートフォンのカメラを使って電動椅子に座った母の姿を撮ってきました。それに気づいた母は必ずと言ってよろはず、「あら、見してく

れ」と催促しました。スマートフォン画面を見た母は、口癖のように、「おれは、ばちやだなあ」と言っていて笑いました。

テレビをつければつきたで、母と一緒に観ている姿を思い出します。「マッサン」など朝ドラの再放送を楽しそうに観ている母の姿はほほえましく、その母の様子をじっと見ていると、「なしたが」と私に声をかけてきました。

数日前、テレビの本体のそばまで行ったら、「赤いせんは取らない様におねがいします」というメモが置いてあり、見入ってしまいました。赤いしるしの付いた電源コードを抜かないようにという母の指示メモです。じつにしっかりと書いた字で書いてあるところを見ると、もう何年も前に書いたものなのでしょう。それにしてもきれいな文字を書いたもんだ、と感心しました。

先日は入院証明書を受け取るために、久しぶりに母が入院していた病院へ行ってきました。病院へ行く途中、助手席に座って「ここは河沢の親類」「ここは押し寿司のとこだ」などと言って、窓の外の景色を語る母の姿を思い出しました。

病院に着くと、病院の建物自体がとても懐かしく感じられました。母が入院していた病院だからなのでしょうね。

眼科や脳神経外科に通っていたころ、検査や診察が終わると、一階の会計の前で、薬が出るのを待ちました。その間、母は車イスに座って目をつむっていたのですが、「終わったよ。帰るよ」と私が言うのと、「とちや、きょうは『あるるん』寄らんがか。寿司買って帰ろさ」という言葉が返ってきたものです。

この日、病院の各種手続きの窓口で証明書を交付してもらってから、何とはなしに椅子に座っている人たちを見たら、母がどこかにいるような気がしてなりません。ばちや、寿司買って帰るわ。

寒ブリまつりは大盛況。ライブ楽しむ

11日、直江津の佐渡汽船ターミナルビルで行われた寒ブリまつりに初めて行ってみました。

前から一度は行って、大きな魚の解体ショーを見たり、屋台周りをしてみたいと思っていました。雨模様の天気だったので、人出も少ないだろうと思って出かけたのですが、予想外でした。駐車場にはやっと入れ、ビルの中はものすごい混み具合

だったからです。楽しみにしていた屋台周りは少しだけにして、ライブの会場に行きました。ここは比較的、空間に余裕があり、イスにも楽々と座れました。このライブでは、わずか40分だけでしたが、川合徹人さんのきれいな歌声と長岡市のm7 (b5) というグループの元気いっほいの歌を楽しむことができました。



上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	12月7日(水)	12月15日(水)
上越南消防署	0.057	0.057
上越北消防署	0.047	0.057
新井消防署	0.057	0.057
頸北消防署	0.047	0.053
頸南消防署	0.067	0.060
東頸消防署	0.047	0.047
名立分遣所	0.053	0.063
高士分遣所	0.057	0.057

